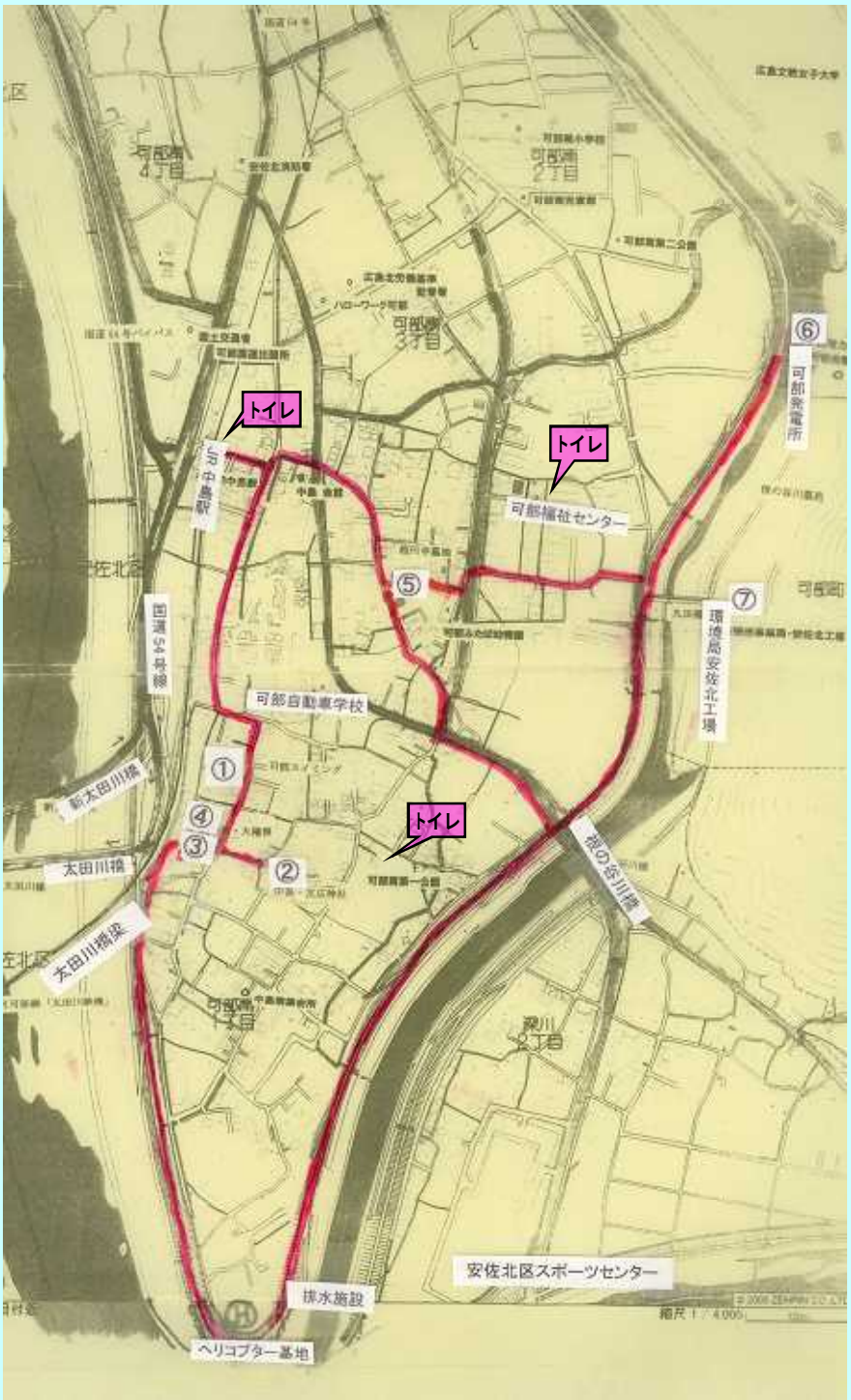
可部の散策 1

太田川橋梁

3河川合流地　（高陽側から可部を望む）

交通の要衝地 可部の南端めぐりコース

●所要時間/ＪＲ中島駅から歩いて2時間　●通年楽しめる



①54号線は陰陽の動脈

初代太田川橋は明治20年完成。2代目は明治37年。3代目から鉄製で、今も三次市で頑張っている。写真は5代目となる太田川橋。

②友広神社

大イチョウは天然記念物氏神で、秋の祭りは盛大黄幡さん･中島招魂社も祀る。鳥居下に水準点も

③乳地蔵さん

昔、母乳の出ない母親がここへお供えしたお米でご飯を炊くと、多量のお乳が授かるようになったといわれる。

④中島の大権現

乳地蔵とともに、太田川の中程にあったもので川幅が広がり、この地に移設された。

⑤歴史も豊か 超円寺

⑤クロマツは広島市保存樹

⑦環境局安佐北工場

可燃ゴミの処理工場

⑥可部発電所

日本海へ注ぐ江の川の水を可部へ引き入れ、発電能力は1万2千6百戸分という

可部福祉センター

ここを事務所とする可部南社協には、ボランティア団による「まちの保健室」活動が展開されている。

可部自動車学校

昭和３５年に太田川橋下河川敷で「自動車教習所」として創業。以来卒業生は11万人に及ぶという

川面に映る スポーツセンター

水鳥のウォッチングも楽しめる。人馴れしたカモの親子には心も和む

昔も今も交通の要衝

堤防に守られた　三河川の合流地

太田川
根の谷川
三篠川

可部の南端　中島地区。「可部南」の地名がぴったりだ。江戸期から明治初期にかけて、旧可部町がいち早く繁栄していた頃、この地は洪水のたびごとに地形が変わり、多くの田畑や人命まで失う被害にあってきた。行政による大規模河川改修により、住民に安心がもたらされたのはつい数十年前から。舟運の時代から明治二十年の太田川橋架橋を経て、可部の南の玄関口であり、陰陽の交通の要衝地。散策の中からきっと新たな発見と感動が得られるのでは。

3 河川の合流地から可部を望む

南端にヘリコプター基地

太田川橋の踏切を渡って南下すると舗装された川土手は車両の車止めがされており、安心安全な散歩道となる。正面に二ケ城山・遠方に呉娑々宇山の稜線。右手には象が寝そべった姿の阿武山がせまる。初夏になれば川面には多くのアユ釣りを楽しむ人で賑わう。ヘリコプター基地からは正面に高瀬堰が、近くには人馴れしたカモの親子が仲良く遊ぶほほえましい姿もみられる。

ヘリコプター基地

災害救助用のヘリコプター基地の完成は平成初年頃。春になれば広い河川敷は緑で覆われる。根の谷川を上流へ向かおう。この付近の川の姿は常時変化を見せる。土師ダムの水を利用する可部発電所の運転中は排水量が多く、まさに一級河川の勇姿。発電の休止時には水量は少なく川底を現す。さながら太田川放水路の干満の光景に似る。右手横にスポーツセンターの丸屋根。見上げると空には白木山の稜線。その麓には可部発電所と環境局安佐北工場の白い建物が迫る。高陽方面への交通の大動脈、「根の谷川橋」へ到着だ。太田川橋からヘリ基地を廻って根の谷川橋まで、約1.5㎞。一級河川3本に囲まれたこの土手の散策は川と山、空までが一体となった視界が望める。しかも車両の通らない歩行者天国の散歩道は可部第一級の景勝地といえよう。あなたも散歩を始めませんか。

名勝　伝承の地を訪ねて

松が見事　超円寺

浄土真宗の寺で開基は五百年前という。現本堂は明治四十二年の再建。広島浅野藩との縁も深く、二代～五代までの藩主の位牌も納められている。

「臥龍松」と呼ばれる黒松は枝振り・幹の大きさとも圧巻。広島市の保存樹に指定されている。

大イチョウは天然記念物　友広神社

境内のイチョウは広島市指定の天然記念物。神社は応神天皇他二柱を祀り、厳島神社とも深い縁を持つ。大正期の洪水では本殿まで水に浸かり、地上げをして再建したものが今の社屋という。

本殿には「黄幡さん」「中招魂社」も連なる。境内には国土地理院の水準点があり、標高（海面からの高さ）17.3625ｍ。これは可部明神社の標高より4ｍも低い。この地域が両岸の土手と排水ポンプに守られたまちであることの証といえよう。

乳地蔵さん

友広神社から西へ50ｍの所に小屋根・扉を備えた社がある。そこに収まるのが乳地蔵。母乳の出ない母親が、白米をお供えしてお願いし、そのお米でご飯を炊くと、不思議に多量の乳が授かったという。戦前にはお供えしたお米を乾燥させてアメリカまで送っていたとも。太田川の河川改修でこの地に移設された。その右に大権現。

中島の大権現さま

島原の乱で幕府がキリシタン弾圧の軍勢を各地から集めた際、中島村から百姓の甚五郎も参加。幕府軍のもとで、殺伐を繰り返すうち、仏教信仰の強い彼は煩悶し悔悟し、ついに戦地で発狂し、帰郷。病の回復を願って親兄弟・地元民が建立した。

「江の川」の水で発電　可部発電所

日本海へ注ぐ水を水路工事でこの地へ運び発電している。完成したのは昭和五十年。発電容量は三十八万キロワット。一般家庭の夏場の利用に換算して一万二千六百戸分という。

稼動延長も計画中とか　環境局　安佐北工場

ゴミの減量化が叫ばれて久しいが、現実は増え続ける一方だ。大量生産と大量消費の繰り返し、「もったいない」の社会はいつになったら実現するのだろう。

発行：可部公民館「可部ガイドクラブ」
監修：可部南コミュニティ協議会